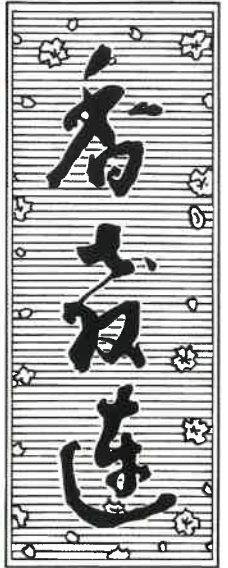


# 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて



香川県教職員連盟機関誌  
発行所：香川県教職員連盟  
発行者：北村 顕吾

〒760-0004  
高松市西宝町2丁目6番40号  
香川県教育会館602号

TEL (087) 835-2721  
FAX (087) 835-2723

毎月10日発行 定価1部50円  
(年間1,000円 送料とも)  
会員の購読費は会費の中を含む



香教連は、結成四十七年を迎えた、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力を持つ、県内最大の教職員団体です。

## 内閣へ

十一月十二日(金)

に全日教連は、首相官邸において第八次中央要請行動(署名簿提出)を行った。香教連からは、村松宏晃副委員長(全日教連事務局次長)が出席した。

内閣からは、文部科学大臣経験者である松野博一官房長官が代表して御対応して下さった。全国の会員の皆様及び要望趣旨に御賛同いただいた皆様より届けられた二九、二三四筆の署名簿を提出した。

また、島村暢之全日教連委員長からは、その要望趣旨である「義務教育に係る費用を全額国庫負担とすること」「優れた人材確保のために人材確保法を尊重し、その優遇部分を拡大すること」「今日的な教育諸課題に対応するため教職員定数を改善すること」の三点について、現場の実態と合わせてお伝えした。

松野博一官房長官からは、これらの要望については所管の部署にしっかりと伝えておくとの力強いお言葉をお聞きすることができた。

お忙しい中、署名への御協力くださった皆様、ありがとうございました。

## 国会へ

十一月十五日(月)～十一月十九日(金)

に全日教連は国会議員の方々への要請行動を行った。香教連からは、村松宏晃副委員長(全日教連事務局次長)が出席した。全日教連の趣旨に賛同して下さる約一〇〇名の国会議員の方々へ要望した。



今回の要望では、主な内容として、学級編制基準の引下げ(中学校三十五人学級化)や教職員定数の改善(小学校高学年における教科担任推進のための加配定数の拡充)、人材確保法に係る優遇部分拡充、こども庁設立に係る福祉政策に關係する部署の統合等に関することである。

国会議員の方々からは、現在検討が進んでいる教育政策に關しての情報を伺うことができたり、現場の状況に關する具体的な質問を受け、それに対して全国調査や直問直答等のアンケートの結果や単位団体から伺っている状況を伝えたりと、有意義な意見交換を含めた要望を行うことができた。

今後も全日教連を通して、学校現場の思いに即した要望を、關係諸機関や国会議員の方々へ伝えてまいりますので、御支援・御協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 子供たち一人一人に対するきめ細かな教育の実現と学校における働き方改革の推進等を求める全国集会



十一月十六日(火)、参議院会館において「子供たちの豊かな育ちと学びを支援する教育関係団体連絡会(教育関係二十三団体)」による全国集会が開催され、全日教連からは村松宏晃副委員長(全日教連事務局次長)が出席した。

集会には、末松信介文部科学大臣をはじめとする文部科学省政務三役の方々、また各政党を代表する国会議員の方々や教育関係諸団体等が出席した。集会の最後には、「子供たち一人一人に対するきめ細かな教育の実現と学校における働き方改革の推進等を求めるアピール」が採択された。

## 温故知新

今回は「聴き方、聴くことはカウンセリング」です。

①正解や結論を急ぎすぎる教師  
こんな場面を見たことがありませんか。「話している子どもを見ない」「次々と指名して一人一人の発言を大事にしない。等といったこと。」「早く正解を出させて次に進みたい。」「予定通りに授業を進めなければならない。」「等といった発言が強いのではないだろうか。教師が正面から子どもとの発言を受け止めていないのです。」

②正対して聴く  
話をしている自分に対して、体を背け、視線を向けない聴き手がいたら不安になります。体の発音も、体をきちんとその子に向けて、正対して聴くべきです。視線もその子に向けて。先生に聴いてもらっている。「安心して話せよう。」等と、子どもたちが思えるような聴き方を教師はすべきです。教師が常に行っている、子どもたちも発言者の方に体と視線を向けて聴こうとするようになります。

③再現できる聴き方をする  
子どもの発言内容を「そっくりそのまま」再現できるようにしたいものです。すぐにはできませんが、最初は十秒程度の発言内容から始めて、少しずつ長い発言を再現できるようにしていきます。一分程度の長い内容を再現してみせると、先生への尊敬の気持ちが高まってくるようになります。そのような聴き方を子どもたちもしようと思えるようになります。

④聴くことはカウンセリングだと自覚する  
教師は話す(伝える)ことと同じように聴くことを大切にすることが必要です。聴くことができない関係にあります。しかし、教師は、聴くことの意識(自覚)が話すことと同様です。話し手と同じように、聴くことへの関心をもち、日々子どもへの指導を心がけたいものです。

⑤Aさんの変化  
Aさんという恥ずかしがり屋の子がいました。低学年のころから、仲の良い友達以外とはほとんど話さない子どもでした。私が話しかけても、首を振って意思表示するだけであつたり、一言返事をした後は黙っているだけであつたりといった日々が続いていました。いつも不安げな表情をしていました。その子はマンガのイラストを描くのがとても好きでした。いつも自由ノートやプリントの裏等に、好きなマンガのイラストを描いていました。私は、休み時間や放課後の時間等を使って、その子の好きなマンガやイラストの話題をしました。その子が話すことをひたすら聴きました。少しずつその子との会話が増えていきました。表情もだんだんと柔らかくなり、好きなマンガやイラスト以外のことも話してくるようになりました。五年生から受け持った一年三か月過ぎた夏休み前ごろから、クラスのみならず話したり、授業中にも少しずつ自分の考えを発言したりすることができるようになりました。

⑥聴くことの効果  
心理学の分野では、コミュニケーションにはカウンセリングの効果があると言われています。話を聴いてもらうことによって、人は気持ちよく着くというのです。安心できるということですね。子どもが話す内容を理解することはもちろんですが、聴いて共感したり一緒に考えたりすることの意味や、価値を忘れないようにしたいものです。また、職場(例えば、上司・校長や教頭)と部下(教諭や講師等)や同僚(先輩先生と後輩先生、同期の先生同士等)や友人、家族等においても、とても大切にしなければならぬことではないでしょうか。(題)